

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート(平成30年度)

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				H30年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
ふじみ野市	②給付適正化	本市では認定者数が一貫して増加傾向にあり、サービス別給付費も増加している。特に在宅サービスと居住系サービスが大きな増加を示している。このためケアプラン点検等により、介護給付の適正化に努める必要がある。	○ケアプラン点検の実施	ケアプラン点検の実施回数 (H30)(R01)(R02) 実施事業所数 6 6 6	ケアプラン点検実施事業所数:5箇所	○	ケアプラン点検員の欠員により、計画で予定した件数を点検することができなかった。今後は、点検員を確保して実施していく。また、ケアプラン点検で指導した事項について、今まで指導対象事業所に対してのみ通知等行っていたが、居宅介護支援事業所に対する集団指導の際に一部公表することで、ケアプラン点検の結果をより広く活用する体制を構築していく。
ふじみ野市	①自立支援・介護予防・重度化防止	本市では認定者数が増加傾向にあり、今後団塊の世代が後期高齢者となることに伴い、大幅に増加することが見込まれる。そのため、要介護状態となることの予防のために、一人ひとりの心身の状態に応じた介護予防を推進していく必要がある。	○ふじみんぴんしゃん体操を軸とした介護予防事業の普及 ○介護予防サポーターの養成	①ふじみんぴんしゃん体操普及啓発事業の実施回数 (H30)(R01)(R02) 実施回数 3 3 3 ②介護予防サポーター養成者 (H30)(R01)(R02) 人数 30 30 30	ふじみんぴんしゃん体操普及啓発事業実施回数:3回 介護予防サポーター新規養成者数:42人	◎	事業実施回数、介護予防サポーター養成人数ともに目標値を達成することができた。また、体操に取り組むための通いの場も少しずつ増えているが、新たな通いの場の発掘及び体操に必要な備品の確保が今後の大きな課題となっている。
ふじみ野市	①自立支援・介護予防・重度化防止	本市の認定者全体に占める要介護1及び要支援認定者の割合は、合計で50%程度となっている。要介護1以下の比較的軽度な認定者の要介護状態の軽減及び悪化防止のために、当該認定者の在宅サービスを支援する居宅介護支援専門員の医療・介護関連知識の習得等のための取り組みを行う必要がある。	○多職種研修会の開催	多職種研修会の参加者数 (H30)(R01)(R02) 人数 260 270 280	多職種研修会の参加者数:379人 多職種研修会の開催回数:3回	◎	多職種研修会等の開催によって、医療と介護の連携がとりやすくなったとの声が出てきている。今後は、他の職種との意見交換や情報共有ができる場としても整備していくことを考えている。
ふじみ野市	①自立支援・介護予防・重度化防止	本市の認定者全体に占める、認知症高齢者自立度がⅡa以上の者は、50%を超えており、2,248人いる。(平成30年3月末時点) 認知症を早期に発見し、適切な治療・支援につなげるとともに、認知症の方及びその家族を支えていく地域づくりが急務となっている。	○認知症初期集中支援チームの設置 ○オレンジカフェ(認知症カフェ)の開催	①認知症初期集中支援チームによる被支援者数 (H30)(R01)(R02) 人数 15 15 15 ②オレンジカフェの協力事業所数 (H30)(R01)(R02) 事業所数 13 14 15	認知症初期集中支援チームによる被支援者数:27人 オレンジカフェの協力事業所数:13か所	◎	目標とした指標は達成できているが、認知症初期集中支援チームで支援したケースの一定期間のモニタリングと、認知症地域支援推進員との連携が課題としてあるので、会議等を通じ、連携等のあり方を検討していく。また、オレンジカフェについてもより多くの認知症当事者の方とその家族の方に参加してもらいたいので、名称を変える等の工夫を検討する。